

福岡管区内では大雨による災害が頻発するとともに、火山活動も非常に活発です。平成28年熊本地震では地震災害とも決して無縁ではないことが改めて認識されました。南海トラフ地震による揺れや津波による災害も懸念されるところです。また、地球温暖化も着実に進行しており、更なる大雨や猛暑日の増加などの危険性が徐々に高まっています。

特に近年は毎年のように豪雨による災害が発生しており、防災気象情報を発表する気象台の役割が一層重要になっています。また、情報はご利用いただいて初めて効力を発揮するものであり、情報の持つ意味や使い方を皆様にご理解頂くことが大切です。そのため、様々な周知活動や、情報を防災対応に適切にご利用いただけるための関係機関との顔の見える関係づくりなどにも力を入れています。



これからも謙虚に自然と向き合い、地方公共団体をはじめとする防災関係機関と手を携えながら、地域防災へ貢献すべく努めて参ります。どうぞよろしく願いいたします。

令和2年6月 福岡管区気象台 気象防災部長

尾崎 友亮（おざき ともあき）